



令和元年12月25日
杉並区立天沼中学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumachu/>

教育目標 自主・自律・共生

「親心」

校長 水野 英利

令和元年となったこの一年も間もなく終わろうとしています。学校では特に、今年に入り心の育成を目的とした道徳的活動に力を入れてきました。その主な取り組みとして「いのちの教育」がありました。

1年生は「誕生学」、2年生は「がん教育」、そして3年生では「臓器移植」と、発達段階に応じていのちの大切さが実感できるようにプログラムしましたが、今年はその初年度のため未履修で終わらないように「誕生学」は2年生でも行いました。その「誕生学」。授業を参観すると最後に赤ちゃん誕生のシーンが映像で流れます。「もうちょっと、もうちょっと頑張って」医師たちが励ます中、元気な産声と共に生まれた赤ちゃん。手慣れた手つきで白い布にくるまれ、そっと母の胸元に差し出されると、先ほどまでの陰相が嘘のように見る見るうちに安堵へと母の表情が変わります。そして小さく「よくがんばったね・・・ありがとう」とつぶやくのでした。

私はその場面を見て回想したことが二つありました。一つはまさしく我が子の誕生でした。そしてもう一つは、私がまだ教師の駆け出しだったころ、3年の担任での12月。今と同様、進路面談をしていたとき、ある母親に話しかけられた場面でした。

私が受け持つその息子さんは、やや小柄ながら勉強がよくでき、水泳、陸上、野球の得意なとてもバランスの良い生徒でした。しかし、面談前の進路希望調査にはその実力を超える難関校がいくつも書かれていました。「厳しいことを伝えなければ」と思い臨んだ面談でしたが、母は頑としてレベルを下げようとはしません。横にいる息子は一言も発せず、生気を失っているようにも見えました。そして帰り際、生徒が廊下に出たとき、母だけが私の方に近寄り話し始めたのです。

「先生すみません。私も実はよく分かっているんです。あの子は生まれてきたとき大変な未熟児でした。生きるか死ぬかの状態が何か月も続き、すぐに抱くことすらできませんでした。その時は、何とか生きてほしいとそれだけを祈っていました。それが、健康には心配ないと分かってから体を鍛えようと色々なことをやらせました。特に水泳は、見る見るうちに力をつけ選手として大会に出るまでになりました。それならばと、今度は地域の野球チームに入れると全国大会に行

くまでの選手になりました。ちょうどそのころ中学の陸上大会でも長距離で表彰されたのを先生はご存知だと思います。運動ができるようになると将来のことを考え勉強させなければと思い塾にも行かせました。成績もどんどん上がってきました。今度は何とかしてレベルの高い高校に行かせたい。だから、あの子のためにも妥協はさせたくないんです。でも先生、私はあの子が生まれてきたときのことを忘れてはいません。何とか健康であってくれればと今も思っています。それでも子どもには期待してしまう。一つのことができるようになったら、また次、また次と。先生、これが親なんです。親心なんです。わかってください。」そう言って丁寧に頭を下げて帰られました。

若い教師への当てつけなのかと勘繰ってみても、妙に最後の「親心」が心に響きました。吉田松陰の辞世の一句に「親思う心



にまさる親心」というのがあります。子が親を思う心よりも親が子を思う心の方がはるかに深い。松陰の親は、一步引いたところから家族を慈しんでいたとても大きな人だったと言います。あの時の生徒は成人になり、今、親のことをどう思っているのだろうか。そんな気持ちに掻き立てられました。

子どもたちは人生をひた走っています。疲れてのどが渇き切った時、コップに2、3滴の水では潤いません。だからと言って何杯もの水を与え続ければ体を壊してしまいます。適量を一杯、渇きを訴えてきた子どもに差し出してあげれば、子どもはまた元気に走り出します。

学校では今、校長、副校長による3年生の面接練習を行っています。私はそこで質問します。「本校を受験するにあたり

りお家の方は何とおっしゃっていますか」。すかさずある生徒は誇らしげにこう答えます。

「あなたの決めた高校なのでしっかり頑張りなさい、と言ってくれました・・・親心が見えました。」



今学期、さまざまな作文や作品のコンクール、部活動や杉並区中学校対抗駅伝大会、ボランティア活動などでも多くの生徒の活躍が見られました。ご家庭でのご協力とご支援に感謝いたします。

税の作文コンクール

- 荻窪納税貯蓄組合連合会会長賞
- 荻窪納税貯蓄組合連合会優秀賞

薬物乱用防止キャンペーン

- ポスター地区会長賞 2年
- 優秀賞 3年
- 優秀賞 3年
- 標語 優秀賞 1年

読書感想文

- 杉並区代表に選出 2年

税の標語

- 全国間税会総連合会入選 3年
- 公益社団法人荻窪法人会会長賞

- 同 佳作
- 同 佳作
- 同 佳作
- 同 入選
- 同 入選
- 同 入選
- 同 入選
- 同 入選
- 同 入選

平和ポスター

- 銀賞 1年
- 銅賞 2年

明るい選挙ポスター

- 教育長賞 (入選) 1年
- 入選 3年
- 佳作 1年
- 努力賞 2年

杉並区人権作文集掲載

- 学校代表 3年
- 同 3年
- 同 2年

すぎなみ朝ベジごはんメニューコンテスト

- 銀賞 2年

(その他、2学年全員が応募し、^{プラスワン}ハッピー賞、+1賞、カラフル賞などのさまざまな賞をいただきました。金、銀、銅賞の生徒は決戦大会で実際に調理をして賞をいただいています。) →



銀賞

朝から元気に！彩り華やか朝食

天沼中学校2年 あれいさん

| |
|--------------------|
| 献立 |
| -ほうれん草とりのりのごま和えごはん |
| -おみそ汁 |
| -オムレツ |
| -トマトとしらすと |
| フロッコリーのサラダ |

ほうれん草とりのりのごま和えごはん

材料(1人分) 作り方

ご飯……………1杯 ①ほうれん草を茹でて、水気をとり、適当な長さに切る。

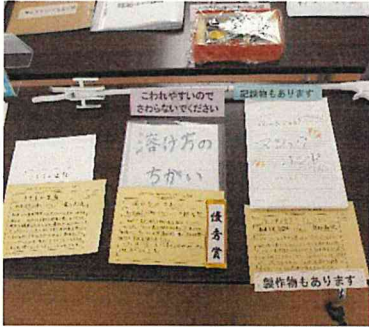
白ごま……………少々 ②ご飯に①のほうれん草と白ごま、はのりを混ぜる。

ほうれん草……………たっぷり

はのり……………お好みで

調理中のこと
主食・主菜・副菜が揃っていて、栄養がバランスがよい献立です。

ご本人にごまを混ぜて自分手廻りにならないようにしました。また、お弁当が豊富なフロッコリーは、食べやすい献立とのコラボしました。



12月15日、荻窪地域区民センター「防災フォーラム」レスキュー隊の代表が参加、レスキュー隊の活動内容を発表し、訓練に参加しました。参加者は、感謝状と図書券をいただきましたが、図書券は本校図書館に新しい本を買って「レスキュー隊からの寄贈本」とします。



杉並区「人権作文集」掲載作品 (杉並区人権擁護委員協議会)

暗くて長いトンネルの先に 3年

あなたは3年前の夏に相模原の障害者施設津久井やまゆり園で19人もの命が奪われた殺人事件を覚えているだろうか。逮捕直後の容疑者はこう言ったという。「障害者は世の中のお荷物。世の中からいなくなるべきだ。」「障害者は不幸しか作ることができない。」そして、「能力で劣る障害者に生きる価値はない。」と主張し続けたという。

私は『生まれて来てくれてありがとう 目と鼻のない娘は14歳になりました』という衝撃的な障害をもってアメリカで生まれた、倉本千璃ちゃんとその家族の実話を読んだ。千璃ちゃんは、12万人に一人と言われる両眼性無眼球症やアデノイドによる呼吸障害、さらには心臓に9ミリほどの穴が空いているなど、とにかく重度の重複障害をもって生まれ、義眼治療や頭の上をチェーンソーで切るなど40回以上の手術や治療を受けてきたという。

千璃ちゃんの母親でこの本の著者である、倉本美香さんは、この本以外に『未完の贈り物』という本を書いている。今回私が読んだ作品には、前作の美香さんへの批判が書かれていて、それを読んで私はとても驚いた。「障害者の親は静かにそれを受け入れて、社会の裏で息をひそめて暮らすべきだ。」まるで、冒頭に書いた容疑者と同じことを言っているのではないか。いまだに一般論で障害者が邪魔者扱いされているのは悲しいことだと思う。

私が以前、旅行でアメリカに行ったとき、赤ちゃんが泣いていても、お母さんは躊躇なくベビーカーを開いたまま地下鉄に乗り込み、周囲は笑顔で進んで声をかける、そんな状況を目にした。障害者や弱者をそのまま受け止め、手を貸すという姿勢が、ごく当たり前のようにある。だからこそ、点字ブロックや音の出る信号がなくても一人で白杖をついている人を見かけるのだろう。一方で日本では、ユニバーサルデザインは当たり前ののに、街で困っている人に声をかける人は滅多にいない。日本とアメリカで、どこに視点を置いているのかの差が明らかだ。

今、様々な技術が進歩しているが、この先どんなに医学が進もうと、この世界から障害者がいなくなることはないだろうとされている。目に見える“しょうがい”、外からはわからない”しょうがい”が当たり前のように入れられる世界、そして体に”しょうがい”がある人を主観的に悪いと決めつけるのではなく、客観的に偏りのない人の見方ができる世界が早くきてほしい。

重い障害を抱えながらも、周りより十年以上遅れて歩けるようになったり、ごはんが食べられるようになったりと、諦めずに成長していく千璃ちゃんと美香さんを本気で尊敬している。倉本家が迷い込んだ暗くて長いトンネルの出口はまだまだ先かもしれない。それでも諦めない家族を見ると、自分も何か力になれないかと思う。

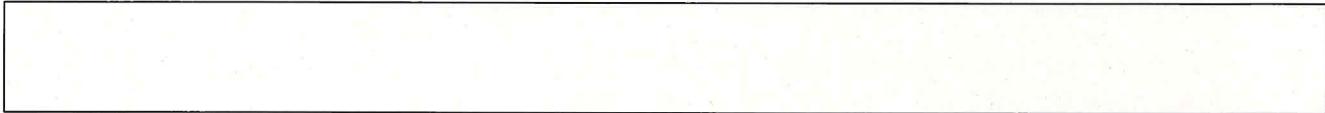
がんばりました！★男女ともに11位

杉並区中学校対抗駅伝大会 12月8日



快晴の12月8日
(日)、済美山運動場にて、天中駅伝チームは

男女ともに11位でゴール。しっかりたすきをつないだ感動は、応援席も熱い気持ちにさせました。応援に来てくれた生徒や保護者の皆様、のほりを作ってくれた雑誌部、寄せ書きで応援してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。



職業人 ワークショップ 11月28日



1年生は、職業学習として校外学習での職業インタビューに続き、地域の皆様のご協力により、さまざまな職業や社会人としての心構えなどを教えていただきました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

- 子ども子育てプラザ天沼所長 幸島厚子様／イナズマカフェオーナー 花房俊幸様
杉並ボランティアセンター所長 黒澤貴子様／成瀬医院院長 成瀬清子様／ケア24 清水社会福祉士 多島和美様
山本カイロプラクティック整体師 山本元純様／ベネッセコーポレーション ICT 支援員 田中恵理香（本校所属）
管理栄養士 宇津見御幸（本校栄養士）／図書館司書 青木ひとみ（本校司書）

歳末たすけあい運動

地域ボランティアの活動で、歳末たすけあいの募金活動を行いました。1時間程度で77,709円も集めました。社会福祉協議会から、地域の福祉に役立てていただきます。

また、前号でご紹介した荻窪音楽祭での募金額は216,294円にもなりました。「天中生徒の協力なしには成しえなかった金額」と、荻窪音楽祭実行委員会の水島さんから感謝の言葉をいただきました。「南相馬みらい夢基金」「原町一中遠征費用の一部」として役立てていただきます。天中生の募金活動ということで、保護者の皆様にも多大なるご協力をいただきました。御礼申し上げます。

保育体験（家庭科）



3年生はお隣のテンドーラビング保育園におじゃまして、1歳児から5歳児さんのそれぞれの活動に参加させていただきました。手をつないで公園に出かけるエプロン姿がほほえましい情景でした。



和の日 12/14

12月土曜授業は琴・三味線の音、昆布やいりこの出汁の香り、古典落語の話芸を味わった和の日でした。講師の先生方ありがとうございます。

- 落語家 昔々亭慎太郎師匠
管理栄養士 幸田真理様
和楽器講師
中石祐子様 長谷川賢様